Project No.
38 ヘルスケア

独居高齢者向けモニタリングシステムの提供
ケアマネジメントや見守りに活用し、高齢者の地域での暮らしを支援

TRY ANGLE EHIME
トライアングルエヒメ

採択事業者名 株式会社ウェルモ

コンソーシアム構成員 医療法人誠志会｜社会福祉法人慈光会｜特定非営利活動法人愛と心えひめ｜特定非営利活動法人まこと｜株式会社クオリア｜愛媛県介護支援専門員協会会長矢川ひとみ（順不同）

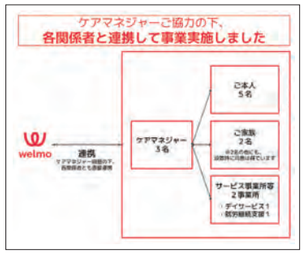
勉強会の実施概要

勉強会の目的	各参加者の実装検証事例の共有を行い、データ活用における知見を共有するとともに、システム／データ活用における今後の可能性や課題の協議を行い、今後の展開の検討に繋げることを目的としました。
勉強会の当初のゴール想定と結果	当初のゴール想定どおり、今後の展開の検討に資する論点提起や検討を行えました。具体的には、まず、各参加者から事例の共有を行いました。参加者からは、「ケアマネジャー以外にサービス事業所がセンサーデータをどう活用できるか疑問だったが、ケアチームができていてセンサーデータの活用によりケアの質向上に繋がったのが面白いと思った」といった感想が挙がりました。また、システム/データ活用における今後の可能性や課題の協議からは、今回の実装検証と同様の短期利用が有効ではないか、緊急時対応をどうすべきか、といった論点の提起がありました。
参加者	誠志会 森貞泰一郎、慈光会 藤村高弘、愛と心えひめ 畑中真理、まこと 山﨑澄人・沖原弘幸、クオリア 勢登勇一、県介護支援専門員協会会長 矢川ひとみ ※畑中・沖原様は最終共有会不参加
協議アジェンダ	❶はじめに ❷皆さまからの事例の共有 ❸今後の活用についてディスカッション A 生活リズムの可視化／整え　B 事故防止・検知(転倒等) C 機能低下・維持・向上の検知　D 服薬管理等、個別の対応 ❹おわりに
協議による実装推進上の重要な決定事項/示唆	「特定のデータ同士で相関があったとしても、他の因子が存在する可能性があるため、その考慮が必要」といった意見や、「特に今回は外出時の行動データを取得していないため、例えば日中活動量を何らかの形で取得するのもよいのではないか」といった意見が挙がりました。
その他補足事項など（開催頻度、規模など）	最終共有会までに、皆さまと以下個別協議を行いました。(一部抜粋) ●ユースケース合意等のためのお打合せ:オンラインで2～3回程度 ●その後のフォロー:お電話中心に随時 ●終了時インタビュー:オンラインで1回 ※この他に、現地訪問も行っています

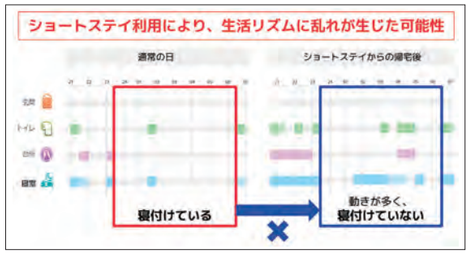
デジタル実装協議フォーマット

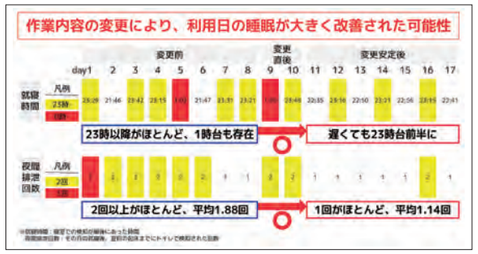
目指す「実装成果」の定義	今回の実装検証では、県民便益となる、ケアの「質向上」に最注力しました。将来的には、介護事業者に対し、「質向上」を通じた収益強化(将来的なものも含めた科学的介護関連加算等へのプラスや稼働率上昇)、「効率化」を通じた業務コストの低減、等を見据えています。
データに基づく協議ポイントの整理	4つの利用目的を定め、それぞれについて、「どういうケース(利用者の状況・状態)で必要とされそうか」と、「どういうデータをどう使うといいか」を協議しました。 A 生活リズムの可視化／整え B 事故防止・検知(転倒等) C 機能低下・維持・向上の検知 D 服薬管理等、個別の対応 例えばAについては、新規に担当する利用者、生活状況が捉えにくい利用者、病状の変化の大きい利用者、昼夜逆転/日中傾眠の可能性がある利用者、ケアプラン/作業内容等の変更を検討している利用者、等をケースとして想定し、協議に臨みました。
主なデータ項目	赤外線センサーや開閉センサーにより、居室、寝室、トイレ、浴室、玄関等での動きを検知し、データ化しました。検知した回数は集計され、週・月単位での回数変化も可視化しました。また、各センサーの検知状況を基に、睡眠時間等の推定も一部実施しました。
ガイドライン（含む具体例）	ケアマネジメント領域でのデータ活用関連ガイドラインとしては、直近では『「適切なケアマネジメント手法」の手引き』が存在しますが、今回の実装検証では、粒度感の兼ね合いから参照しませんでした。
「実装成果」実現に向けた示唆/考察	「特定のデータ同士で相関があったとしても、他の因子が存在する可能性があるため、その考慮が必要」といった意見や、「特に今回は外出時の行動データを取得していないため、例えば日中活動量を何らかの形で取得するのもよいのではないか」といった意見が挙がりました。(再掲)

勉強会（最終共有会）の様子



サービス事業所等からウェルモへの
利用者情報の共有場面





Copyright © EHIME Prefecture. All rights reserved.